



ふじいりつ子

女性の活躍（平成27年12月一般質問）

最初に、**女性の活躍**の観点から、2点について、質問させていただきます。

私は、「女性の活躍」という言葉を聞くたびに、「**女性の活躍って何なのだろう**」と考えていました。

私の思いの一端を申し上げさせていただきますと、**女性が、社会で仕事を持ち、生き生きと、また颯爽と働くことが活躍の象徴**となっていますが、同時に、次の世代を担う赤ちゃんを産むことも女性にしかできない大切な役割であり、女性の活躍と言えるのではないでしょうか。

今のままの状況が続き、少子化が進めば、**85年後の2100年**、つまり、今年生まれた赤ちゃんが現在の平均寿命である**85歳**を迎えた時、日本の人口は**5000万人**にまで減少すると言われています。

産業、経済、国防、社会保障など全ての面において日本が成り立たない、まさに国難であろうと思います。

この国難である**少子化のカギを握るのは女性**だと思いますが、まずは、今以上に女性の皆さんが出産を望み、子育てに喜びを感じられるようにしていかなければなりません。

しかしながら、いくら望んでも妊娠できない場合もありますので、**不妊治療に対する支援の充実**については、より積極的に進めて欲しいと願っているところです。

そんな中、最近、若い人たちから、とても寂しい言葉を聞くことがあります。それは、「結婚したら何のメリットがあるの？」「赤ちゃんは何のために産むの？」と以前は考えもしなかったものです。

「結婚や出産は個人の自由である」という意見があることも存じ上げていますし、理解もできます。しかしながら、誰もがこうした意見を強く持つことになれば、先ほどのような発言が増え、結果として、結婚や出産を望まない方が増えていくことにもつながりかねません。こうしたことから、私は**今こそ、結婚、出産、子育ての重要性について、社会全体で考えていくことが必要だ**というふうに、改めて感じております。

さて、近年、子育てをしながら、仕事を頑張っておられる女性がたくさんいらっしゃいます。女性が家庭と仕事の両立をするには大きなエネルギーが要りますので、出産後のフォローや、子育てへの支援がとても大切です。

先般、県では、女性の活躍促進に向けた環境づくりを進めるため、初めて、**県庁で働く女性職員を対象に、課題や職場に対する意識等についてのアンケートを実施**されました。このアンケート調査は、山口県女性職員活躍推進行動計画の策定に参考にされたのではないかと思いますが、その結果を拝見させて頂きましたし、私自身も県庁の女性職員の方々に直接ご意見を聞かせていただきましたので、少しご紹介したいと思います。

結婚されている方は、夫婦で協力して家事を分担しておられるようですが、やはり**家庭においては、女性の方が、より多くの家事を担われている**ようです。

さらに、**育児については、自分が、「女性の仕事」と認識し、主体的に担っておられる方も多い**ようです。

このため、妊娠出産期の休暇をはじめ、保育制度や、時短勤務、1時間単位の休暇制度などを利用しながら、頑張っておられるようですが、その方たちは、「働く環境は、以前とは比べものにならない程充実してきている」と感謝しておられます。

しかし、**子供が小さい時は急な発熱や怪我など、予期せぬことが頻発**しますし、ようやく小学校に入学したと思っても、**小1の壁や小4の壁**は厚く、また、子供を巻き込む事件が多発する現在、安全の確保の面からも、保育園の時より、**学校に上がってからの方が、より厳しい子育て環境**となっており、苦労も増えているようです。

また、乳幼児期、小学生の時だけでなく、思春期や受験期の中高生になっても、子供は母親の力を必要としますが、その求めに対しても**充分な時間が取れず、ジレンマに陥ってしまう**と言う母親ならではの苦しい思いもたくさんお聞きしました。

さらに、「**毎日が綱渡り的な状態です。女性が歯を食いしばらなくても、働きながら子育てができる体制が欲しい**」と言う言葉に胸が痛くなりました。

「しっかり子どもと向き合いながら子育てをしたいし、自己実現のため、また、家族のために仕事もきちんとしたい」と言う女性の2つの思いを大切にし、周囲が守り支えてあげないと、子供を犠牲にしながら無理な勤務をせざるを得ないか、または、仕事を続けたくても辞めざるを得ないことにもなりかねません。

介護や子育てが主に女性の役割となっている現在、「女性の活躍とは労働力としての社会進出である」とみなした施策を進めて行けば、女性はますます結婚しにくくなるし、出産も難しくなります。ましてや、もう一人産もうという事にはならないように思います。

また、施策を立案する際には、「親の立場からみた子育て支援」ではなく、「子供の視点に立って何が大切か」を考えることも大事だと思います。例えば、保育時間の延長について考えてみます。遅くまで預かっていただける制度は大切であり、本当にありがたいのですが、これは親からの立場からの視点です。逆に、子どもは「早くおうちに帰って、お母さんに甘えたい」という事にあるのではないでしょうか。そうであるならば、母親の働く時間を短縮してあげることも必要だと思います。

「子育て世代をしっかり応援しよう！」そのような輪が職場にも社会にも大きく広がらなくては、女性に過度の負担がかかり、子育てにも仕事にも影響が出てきます。本年8月には女性活躍推進法が成立するなど国を挙げて機運が高まっている今こそ、県の施策として、働く女性の環境整備、特に、社会の宝である子供たちから母親としての力を求められる「ここぞ！」という時には、それを叶えてあげられるような環境づくりに力を注いで頂きたいと思います。

そこでお尋ねいたします。

今後、女性の活躍の観点から、母親としての役割を果たしながら仕事を続けていくための環境づくりに、どう取り組まれるのか、ご所見をお伺いします。

＜村岡嗣政県知事 答弁＞

私からは、母親として安心して働ける環境づくりについてお答えします。

様々な分野で女性の就業機会が拡大をする中、働く女性が子どもと向き合い、母親としての役割を果たしながら仕事を続けていくことができる環境をつくるいかなければなりません。そのためには、仕事と家庭生活についての「ワーク・ライフ・バランス」を実現していくことが極めて重要であるというふうに考えています。

このため、チャレンジプランの重点施策に「女性が輝く地域社会の実現」を掲げ、仕事と子育ての両立に向けた環境づくりを促進しております、お示しの「子育て世代をしっかり応援をしよう」という輪が職場や社会に大きく広がる取組を積極的に進めているところです。

具体的には、地域や企業、関係団体と連携した「やまぐち子育て連盟」を設立して、そうした気運の醸成を図るとともに、子育てしやすい職場づくりに向けて、こうした取組を行っていく子育て応援企業ですとか、イクメン応援企業の拡大、短時間勤務やフレックスタイムなどの柔軟な働き方の普及啓発に努めているところです。

さらに、女性が働きやすい職場づくりに向け、今年度新たに、経済団体と連携をして、企業経営者や男性管理職を対象にセミナーを開催し、これまでの働き方や職場環境が改善されるよう意識改革を図っています。

また、職場の上司が子育て中の部下を応援する取組も重要であると考えています。これを進めるため、私自ら「イクボス宣言」を行い、県内企業を対象にイクボスセミナーを実施するなど、県内で「イクボス」を増やすための働きかけも積極的に行っているところです。

私は、今後とも、こうした取組をしっかりと進め、社会全体で子どもや子育てを支援する「子育て文化」を創造し、女性がいきいきと働きながら、安心して出産や子育てができる環境をつくり出すことによって、働く女性の活躍促進に全力で取り組んでまいります。

その他の御質問につきましては、関係参与員よりお答え申し上げます。